

平成 28 年度(H28 シカ年度)遺産地域内エゾシカ個体数調整実施結果

<全体>

- ・遺産地域内で合計 219 頭（オス成獣 89 頭、メス成獣 97 頭、0 歳 33 頭）を捕獲。

1. 知床岬地区

<1-a. 概要>

- ・ H19 シカ年度より 10 シーズン目の捕獲。仕切柵整備からは 6 シーズン目。流氷期（3 月）にヘリコプターを使用した 1 泊 2 日の捕獲を 1 回、流氷明け（5～6 月）に船舶を使用した 2 泊 3 日の捕獲を 1 回、補助的な日帰り捕獲を 1 回実施。
- ・ 計 38 頭（注）（オス成獣 28 頭、メス成獣 10 頭、0 歳 0 頭）を捕獲。
注）前年 6 月捕獲分のメス成獣 1 頭を含む。

<1-b. 結果および目標達成状況> 表 2-2-1-1、表 2-2-1-2、図 2-2-1-1

- ・平成 28 年 6 月 21 日～23 日に 7 名（射手 5 名＋補助 2 名＋犬）で実施。
1 頭（メス成獣）を捕獲。
- ・平成 29 年 3 月 9 日～10 日に 17 名（射手 15 名＋補助 2 名）で実施。
34 頭（うちメス成獣 7 頭；20.6%）を捕獲。
- ・平成 29 年 5 月 17 日～19 日に 5 名（射手 5 名）で実施。
3 頭（うちメス成獣 2 頭；66.7%）を捕獲。
- ・平成 29 年 5 月 30 日に 5 名（射手 1 名＋補助 4 名）で実施。
捕獲なし。

実行計画目標値：51 頭（未達成）

- ・捕獲数は、昨シカ年度（24 頭）と比較して増加した。厳冬期の積雪深に関係した岬先端部におけるシカ越冬数の増加が、3 月の捕獲数に大きく影響したと考えられる。
- ・10 シーズンで計 861 頭（うちメス成獣 464 頭）を捕獲。動員射手はのべ 875 人日。
- ・同エリア（モニタリングユニット M00）では、捕獲実施前の平成 29 年 2 月 27 日の航空カウント調査で、88 頭（前年同期は 57 頭）を確認。
- ・捕獲終了時点での岬先端部における推定生息数は 51 頭（88-37=51）。
- ・航空カウントと捕獲実績から算出した推定生息密度：15.8 頭/km² *
※先端部地区の面積を 3.23 km²として計算。7 km²で計算すると 7.3 頭/km²。捕獲実施後の 5 月末(H28 シカ年度末) 時点。第 3 期管理目標（航空カウント発見密度 5 頭/km²以下）：未達成

表 2-2-1-1. 知床岬におけるエゾシカ捕獲結果一覧 (H19~28: 2007-2016 シカ年度)

| シカ年度 | 捕獲頭数 | 捕獲個体の内訳 | | | | | | 巻狩回数 | のべ動員 射手 | 捕獲前 推定頭数 | 捕獲率 (%) |
|-----------|------------|------------|-----------|------------|-----------|----------|----------|-----------|------------|-------------|------------|
| | | メス成獣 | メス0歳 | オス成獣 | オス0歳 | 不明 | 不明0歳 | | | | |
| H19(1年目) | 132 | 89 | 10 | 18 | 15 | 0 | 0 | 27 | 203 | 480 | 27.5 |
| H20(2年目) | 122 | 76 | 7 | 26 | 13 | 0 | 0 | 17 | 174 | 449 | 27.2 |
| H21(3年目) | 158 | 86 | 9 | 47 | 12 | 4 | 0 | 8 | 143 | 374 | 42.2 |
| H22(4年目) | 57 | 20 | 4 | 30 | 3 | 0 | 0 | 3 | 96 | 246 | 23.2 |
| H23(5年目) | 216 | 133 | 18 | 53 | 11 | 1 | 0 | 3 | 53 | 265 | 81.5 |
| H24(6年目) | 32 | 4 | 1 | 26 | 1 | 0 | 0 | 3 | 28 | 75 | 42.7 |
| H25(7年目) | 9 | 2 | 1 | 5 | 1 | 0 | 0 | 2 | 25 | 87 | 10.3 |
| H26(8年目) | 73 | 34 | 9 | 26 | 3 | 1 | 0 | 3 | 52 | 139 | 52.5 |
| H27(9年目) | 24 | 10 | 0 | 9 | 4 | 0 | 1 | 1 | 40 | 57 | 42.1 |
| H28(10年目) | 38 | 10 | 0 | 28 | 0 | 0 | 0 | 4 | 61 | 88 | 43.2 |
| 総計 | 861 | 464 | 59 | 268 | 63 | 6 | 1 | 71 | 875 | — | — |

※成獣は下顎切歯により、1歳以上と簡易判定された個体を表す。

表 2-2-1-2. 知床岬におけるエゾシカ捕獲作業の実施状況一覧 (H19~28 シカ年度)

| シカ年度 | 実施時期 | 捕獲頭数 | 回収 個体数 | 参加者数 ^{※1} | | | 捕獲実施 日数 | |
|---------------|--------------|------------|------------|--------------------|------------|-----------|------------|-----------|
| | | | | 射手 | 補助員 | その他 | | |
| H19 | 流水前 | 33 | 22 | 90 | 5 | 26 | 3 | |
| | 流水後 | 99 | 44 | 113 | 59 | 24 | 12 | |
| | 1年目合計 | | 132 | 66 | 203 | 64 | 50 | 15 |
| H20 | 流水前 | 50 | 10 | 58 | 19 | 2 | 3 | |
| | 流水後 | 72 | 30 | 116 | 45 | 1 | 6 | |
| | 2年目合計 | | 122 | 40 | 174 | 64 | 3 | 9 |
| H21 | 流水前 | 57 | — | 21 | 6 | 3 | 1 | |
| | 流水中 | 86 | — | 85 | 15 | 5 | 4 | |
| | 流水後 | 15 | 55 | 37 | 20 | 1 | 3 | |
| 3年目合計 | | 158 | 55 | 143 | 41 | 9 | 8 | |
| H22 | 流水中 | 57 | — | 90 | 15 | 5 | 4 | |
| | 流水後 | 0 | 10 | 6 | 3 | 1 | 1 | |
| | 4年目合計 | | 57 | 10 | 96 | 18 | 6 | 5 |
| H23 | 流水中 | 131 | — | 14 | — | — | 1 | |
| | 流水後 | 85 | 112 | 39 | 13 | — | 2 | |
| | 5年目合計 | | 216 | 112 | 53 | 13 | 0 | 3 |
| H24 | 流水中 | 13 | — | 14 | — | — | 1 | |
| | 流水後 | 19 | 14 | 14 | 9 | — | 1 | |
| | 6年目合計 | | 32 | 14 | 28 | 9 | 0 | 2 |
| H25 | 流水後 | 9 | 0 | 25 | 4 | 0 | 2 | |
| | 7年目合計 | | 9 | 0 | 25 | 4 | 0 | 2 |
| | H26 | 流水中 | 57 | — | 15 | 2 | 1 | 1 |
| 流水後 | | 16 | H27の6月に回収 | 37 | 4 | 5 | 5 | |
| 8年目合計 | | | 73 | 0 | 52 | 6 | 6 | 6 |
| H27 | 6月 | 15 | 5(H26分含む) | 10 | 0 | 0 | 2 | |
| | 流水中 | 3 | — | 15 | 3 | 0 | 1 | |
| | 流水後 | 6 | H28の6月に回収 | 15 | 1 | 4 | 3 | |
| 9年目合計 | | 24 | 5 | 40 | 4 | 4 | 6 | |
| H28 | 6月 | 1 | 1 | 15 | 2 | 0 | 3 | |
| | 流水中 | 34 | — | 30 | 4 | 0 | 2 | |
| | 流水後 | 3 | 3 | 16 | 4 | 2 | 4 | |
| 10年目合計 | | 38 | 4 | 61 | 10 | 2 | 9 | |
| 総計 | | 861 | 306 | 875 | 233 | 80 | 65 | |

※1 射手は銃を持って参加した人員、補助員は銃を持たず捕獲に参加した人員を表す。ただし回収実施日には知床財団職員は回収に専念したため補助員とする。その他は番屋管理や視察等で同行した人員を表す。

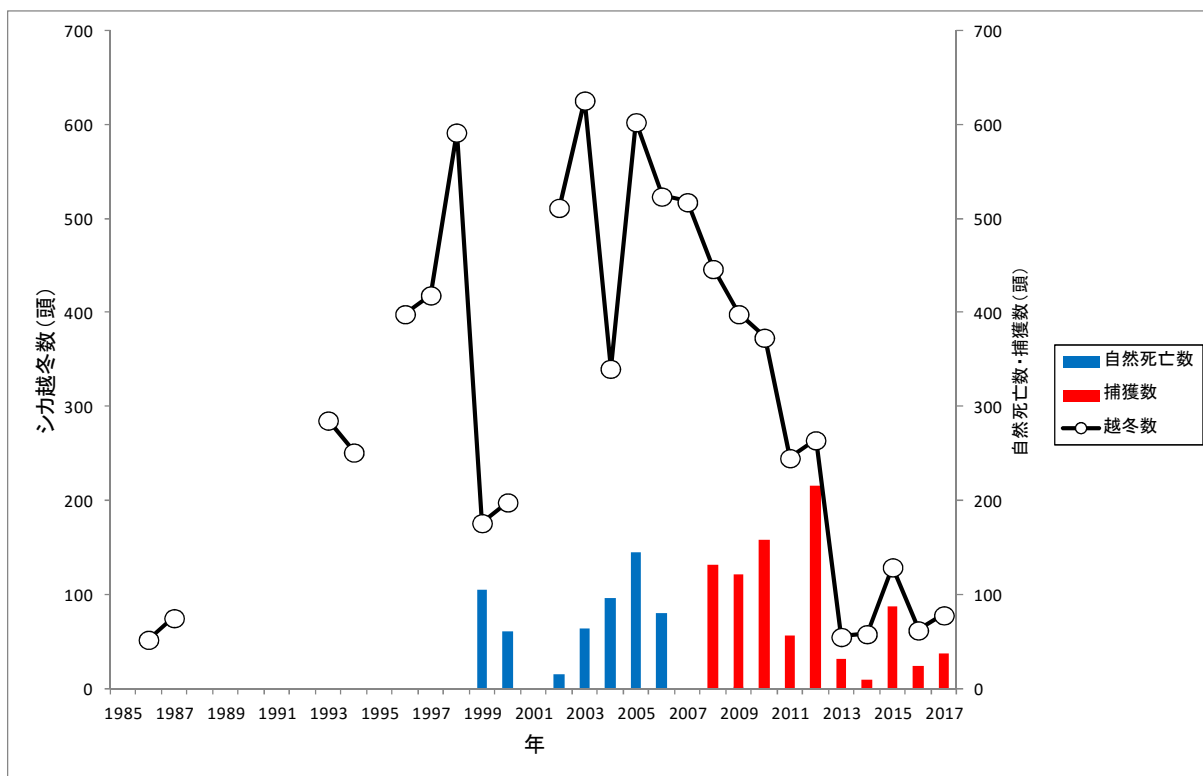


図 2-2-1-1. 航空カウント調査による知床岬先端部のエゾシカ越冬確認数（捕獲前）と捕獲数の推移
 ※平成 13（2001）年は調査なし

<1-c. まとめ>

- ・現状では、日中の仕切柵内にシカがほとんどいないため、日帰り捕獲は不適。流氷期・無積雪期ともに、夕方や早朝の捕獲作業を可能とするため現地泊が必要。
- ・大人数による流氷期の捕獲は、年によって（積雪にともなうシカの岬先端部への集中状況によって）捕獲成績が大幅に変動する。
- ・無積雪期の少人数宿泊捕獲においては、岬先端部に 5 月以降シカがほとんどいないため、捕獲効率が著しく低下している。

2. ルサ - 相泊地区（+ウナキベツ地区）

<2-a. 概要>

- ・ 羅臼町ルサ川左岸（モニタリングユニット R13：ルサ相泊）において、囲いわなと補助的なくくりわなによる捕獲を実施。相泊以北の海岸線（モニタリングユニット R12：ウナキベツ）において船舶を使用した狙撃（以下、船舶捕獲）を実施。
- ・ 計 79 頭（オス成獣 28 頭、メス成獣 43 頭、0 歳 8 頭）を捕獲。

<2-b. 結果> 表 2-2-1-3

1) ルサ囲いわな（7年目）

- ・ 自動落下式ゲートを用いた小型囲いわな（既設）による捕獲を、平成 29 年 1 月 24 日～3 月 29 日までの 65 日間（64TN：トラップナイト）実施。
- ・ **2 頭**（メス成獣の捕獲なし）を捕獲。

2) ルサくくりわな（1年目）

- ・ ルサ囲いわな周辺においてくくりわな（日により 8～9 基）による捕獲を、平成 29 年 1 月 25 日～3 月 29 日までの 64 日間（540TN）実施。
- ・ **11 頭**（うちメス成獣 6 頭；54.5%）を捕獲。

囲いわな+くくりわな=13 頭

実行計画目標値：20 頭（未達成）

3) 相泊以北における船舶捕獲（1年目）

- ・ 平成 29 年 2～4 月に相泊以北の海岸線（クズレハマ川～メガネ岩）において船舶を使用した狙撃による捕獲を 9 回実施。
- ・ **66 頭**（うちメス成獣 37 頭；56.1%）を捕獲。

実行計画目標値：設定なし

表 2-2-1-3. H28 シカ年度 ルサー相泊地区およびウナキベツ地区におけるエゾシカ捕獲状況

| 捕獲手法 | 場所 | オス成獣 | メス成獣 | 0歳 | 計 |
|-------|-----------------|------|------|----|----|
| 罠いわな | ルサ | 2 | 0 | 0 | 2 |
| くくりわな | ルサ | 4 | 6 | 1 | 11 |
| 船舶捕獲 | クズレハマ川～ メガネ岩 | 22 | 37 | 7 | 66 |
| 合計 | | 28 | 43 | 8 | 79 |

<2-c. 捕獲効率>

- ・1日あたりの最大捕獲頭数は、ルサ罠いわな及びくくりわなともに1頭、船舶捕獲は13頭（3月6日）であった。
- ・ルサ罠いわな（7シーズン目）は、捕獲頭数2頭、わな稼働1日あたりの捕獲頭数（捕獲効率）は0.03頭/日（0.03頭/TN）であった。捕獲頭数、捕獲効率ともに過去最低（表2-2-1-4）。
- ・くくりわなの稼働1日あたりの捕獲頭数（8～9基分合計）は0.17頭/日、わな1基あたりで0.02頭/TNであった。

表 2-2-1-4. ルサ罠いわなの捕獲効率の年度間比較

| シカ年度 | ルサ罠いわな | |
|------|--------|-------------------|
| | 搬出頭数* | 捕獲効率 ^a |
| H22 | 100 | 1.04 |
| H23 | 91 | 1.42 |
| H24 | 17 | 0.26 |
| H25 | 14 | 0.16 |
| H26 | 36 | 0.40 |
| H27 | 16 | 0.20 |
| H28 | 2 | 0.03 |
| 合計 | 276 | |

- * 搬出頭数：脱走個体や意図的に再放逐した個体を除く、生態系から除去した頭数
- ・捕獲効率^a：1わな日（罠いわなの有効稼働日）あたりのシカ搬出頭数（頭/日）

<2-d. まとめ>

ルサー相泊地区の北浜で発生した土砂崩れにより道道が通行止めとなり、例年実施している流し猟式 SS と相泊囲いわなを、H28 シカ年度には実施できなかった。ルサ川左岸でのわな捕獲は、誘引可能範囲にいる群れが少ないため、今後も大量捕獲は見込めないものと推測される。相泊以北の船舶捕獲は実施初年度ということもあり、一定の捕獲成績をあげたが、今後も継続して実施した場合は、捕獲対象群の急速なスマート化が懸念される。

1) ルサ囲いわな

- ・ H28 シカ年度は、捕獲頭数・捕獲効率ともに過去最低。ただし、囲いわなに誘引されたシカが手前のくくりわなで捕獲されていた可能性あり。
- ・ 囲いわな施設の老朽化が激しい。

2) ルサくくりわな

- ・ 囲いわなの補助的捕獲手法として実施したが、囲いわなの捕獲数を上回った。
- ・ 捕獲効率が下がった場合にすぐに移設できることが利点だが、生体での搬出が出来ないことが難点。
- ・ くくりわなに掛かったシカを他のシカが見ることで、わな設置場所付近を忌避するようになる恐れあり。

3) 相泊以北船舶捕獲

- ・ 羅臼側のエゾシカ B 地区のうち、これまで手付かずだった相泊以北における初の捕獲試行。狙撃が失中してもすぐには逃走しないシカが多かったが、今後も継続した場合にはスマート化する可能性大。
- ・ 船上からの狙撃と、海岸等に上陸した後の狙撃の 2 パターンを実施。巻き狩りや忍び猟は実施せず。
- ・ 捕獲個体の回収成功率が低いことが難点。回収作業員が上陸できなかったり、捕獲個体が遠い斜面上や崖上から海岸まで落ちてこないような場合が多かった。
- ・ 捕獲を実施するための理想的条件は、流氷が根室海峡内に進入して波がない状態。ただし、条件を満たす日は少なかった。
- ・ 供用中の道路を通行止めにするための調整等が不要なため、実施日を捕獲に適した日に設定することができた。

3. 幌別 - 岩尾別地区

<3-a. 概要>

- ・斜里町幌別-岩尾別地区（モニタリングユニット S04）において、平成 29 年 1 月～5 月に 7 カ所で捕獲を実施。
- ・計 **102 頭**（オス成獣 33 頭、メス成獣 44 頭、0 歳 25 頭）を捕獲。
実行計画目標値合計：100 頭（*達成）

<3-b. 結果> 表 2-2-1-5

1) 仕切柵を用いた大型囲いわな（4 年目）

- ・平成 29 年 1 月 21 日～3 月 27 日の 66 日間に 3 回の捕獲作業を実施、うち 2 回成功。
- ・平成 29 年 4 月 3 日～5 月 31 日の 59 日間に 6 回の捕獲作業を実施、うち 1 回成功。
- ・**13 頭**（うちメス成獣 1 頭；7.7%）を捕獲。

実行計画目標値：20 頭（未達成）

2) 幌別河口囲いわな（4 年目）

- ・自動落下式ゲートを用いた囲いわなによる捕獲を、平成 29 年 2 月 9 日～3 月 17 日の 37 日間実施。
- ・**19 頭**（うちメス成獣 9 頭；47.4%）を捕獲。

実行計画目標値：40 頭（未達成）

3) 岩尾別河口の積雪期流し猟式 SS（4 年目）

- ・岩尾別橋から岩尾別川河口までの孵化場施設の通路沿線において、平成 29 年 1 月 25 日より餌付け誘引を開始し、2 月に 6 回（2, 9, 16, 20, 23, 27 日）、3 月に 5 回（2, 6, 13, 16, 20 日）、計 11 回捕獲を実施。
- ・**26 頭**（うちメス成獣 17 頭；65.4%）を捕獲。

実行計画目標値：20 頭（*達成）

4) 幌別箱わな（1 年目）

- ・幌別地区プユニ岬周辺において箱わなによる捕獲を、平成 29 年 2 月 7 日～3 月 17 日の 39 日間実施。
- ・**17 頭**（うちメス成獣 6 頭；35.3%）を捕獲。

実行計画目標値 10 頭（*達成）

5) 岩尾別箱わな（1 年目）

- ・岩尾別川河口左岸において箱わなによる捕獲を、平成 29 年 2 月 1 日～3 月

17日の45日間実施。

- ・18頭（うちメス成獣5頭；27.8%）を捕獲。

実行計画目標値：10頭（*達成）

6) 岩尾別 残雪期誘引狙撃（1年目）

- ・岩尾別地区において、平成29年4月6日より餌付け誘引を開始し、4月に2回（10, 17日）、計2回捕獲を実施。
- ・1頭（うちメス成獣0頭；0%）を捕獲。

実行計画目標値：設定なし

7) 100平方メートル運動地内 無積雪期流し猟式SS（4年ぶり2度目）

- ・しれとこ100平方メートル運動地の作業道沿線において、平成29年5月に3回（11, 25, 31日）、計3回捕獲を実施（6月実施分は含まず）。
- ・8頭（うちメス成獣6頭；75.0%）を捕獲。

実行計画目標値：設定なし

表 2-2-1-5. H28 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区における手法別エゾシカ捕獲状況

| 捕獲手法 | 場所 | オス成獣 | メス成獣 | 0歳 | 計 |
|--------|----------------|------|------|----|-----|
| 仕切柵 | 岩尾別地区 | 12 | 1 | 0 | 13 |
| 囲いわな | 幌別川河口 | 5 | 9 | 5 | 19 |
| 箱わな | 幌別地区 | 7 | 6 | 4 | 17 |
| 箱わな | 岩尾別川河口 | 7 | 5 | 6 | 18 |
| 流し猟式SS | 岩尾別河口 孵化場周辺 | 2 | 17 | 7 | 26 |
| 誘引狙撃 | 岩尾別地区 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 運動地SS | 岩尾別地区 | 0 | 6 | 2 | 8 |
| 合計 | | 33 | 44 | 25 | 102 |

※運動地SSは、2017年6月分を含まず。

<3-c. 捕獲効率>

- ・1日あたりの最大捕獲数は、幌別囲いわな9頭（2月9日）、岩尾別河口流し猟式SS4頭（2月20日など）、岩尾別仕切柵11頭（1月26日）であった。
- ・捕獲実施1回あたりの平均捕獲数は、幌別囲いわな4.8頭、岩尾別河口（積雪期）流し猟式SS2.4頭、岩尾別仕切柵1.4頭、残雪期誘引狙撃0.5頭、無積雪期流し猟式SS2.7頭であった。仕切柵は手動捕獲のため空ぶり（0頭捕獲）が多かった。

<3-d. まとめ>

1) 仕切柵を用いた大型囲いわな

- ・オス成獣については若干の捕獲機会があったが、メス成獣の進入および捕獲機会はほとんど無かった。
- ・仕切柵内への同時進入頭数は 11 頭（1 月 26 日）が最多で、全てオス成獣。
- ・2 月中旬以降、自動カメラによる確認数は 4 月下旬までは 0 頭。それ以降は稀に柵内に進入しているシカ 2~3 頭が確認されたが、その内 2 頭は耳標付きの 4 個体だった可能性が高い。
- ・捕獲 4 年目を終了し、仕切柵周辺を行動圏に含むシカの大部分、特に行動範囲の狭いメス成獣は、既に捕獲してしまった可能性が高い。
- ・仕切柵～岩尾別川河口間には獲り残しのスマート化した群れが存在。

2) 幌別河口囲いわな

- ・捕獲 4 年目になり、捕獲効率は大幅に低下した。
- ・わな周辺でのヒグマの活動が確認されたため、緊急的に 3 月 17 日（捕獲適期のピーク）にわなを閉鎖した。
- ・囲いわな内に進入しないシカが増加。囲いわなの仕様変更や箱わな等への手法変更が必要。

3) 岩尾別河口 積雪期 流し猟式 SS

- ・1 月 30 日頃から、多数のシカが餌場に出現。最大で 37 頭（3 月 14 日）が餌場周辺に出現。
- ・集まりすぎて射撃できない状況が今シーズンも発生。群れの分断が課題。
- ・3 月 5 日に実施された航空カウント調査では、54 頭が河口右岸付近で確認された。
- ・スマートディア化疑いは 15 頭。
- ・捕獲作業中にヒグマの出没はなかったが、3 月 21 日に目撃あり。来冬以降も要警戒。

4) 幌別箱わな ・ 5) 岩尾別箱わな

- ・遺産地域内では初の箱わな導入。当初は囲いわなや流し猟式 SS の補助的位置付けであったが、計 35 頭（幌別 17・岩尾別 18）を捕獲し、低密度フェーズでの重要な捕獲手法となりうる可能性が示された。
- ・わな周辺でのヒグマの活動が確認されたため、3 月 17 日（捕獲適期のピーク）にわなを緊急閉鎖した。
- ・組み立て後も 5~6 人で移設可能。シカの休息場である針葉樹林内や天然の餌場に設置しやすいことや、シカの小規模な移動やトラップシャイ化に合わせた移設が可能なことが利点。一方で、生体搬出が困難で止め刺しが必要な

ことが難点。

6) 岩尾別 残雪期誘引狙撃

- ・シカの警戒心が強く、日中の狙撃機会がほとんど無かった。2-3月の岩尾別台地上での接近・狙撃シミュレーションでも狙撃可能な状況はほとんど発生せず。単体では捕獲効率が高い手法とはいえない。
- ・4月上～中旬にはヒグマ撮影目的のカメラマンの、道道の冬期通行止め区間等への徒歩による進入が複数回確認され、安全管理上も課題あり。

7) 運動地内 無積雪期流し猟式 SS

- ・前回実施した2012（H24）シカ年度と比較して、シカの発見頻度および発砲機会がきわめて少なかった。
- ・幌別台地上の一部エリア（旧共同放牧地付近等）の作業道沿いを除き、シカの警戒心が非常に高く、車両を見るとすぐに逃走。シカの反応が可猟区のそれに近いような状況。
- ・知床自然センター周辺等で十分に人なれしたと推測される一部のシカを除き、この手法での捕獲は困難と推測される。